

森喜朗 元総理大臣 基調スピーチ

(在京アフリカ外交団主催アフリカデー・シンポジウム)

(五月二十五日(金)九時四十分)

国連大学、ハンス・ファン・ヒンケル学長、

在京アフリカ外交団長、サラ・ハンナシ駐日チュニジア大使、

各国大使閣下、

御列席の皆様、

一九六三年五月二十五日にアフリカ連合(AU)の前身たるアフリカ統一機構(OAU)が誕生して、四十四年目となる本日のシンポジウムの開催に際し、心より祝意のメッセージを申し上げます。この場をお借りしまして、在京のアフリカの大使の皆様が、アフリカ開発のため、また日本とアフリカとの関係強化のため、日々ご尽力されておられることに敬意を表します。

冷戦終結時、国際社会の「援助疲れ」がその後のアフリカ支援に暗い影を落とす中、日本は一九九三年にアフリカ開発会議(TICAD)を初めて開催し、アフリカ支援の継続を訴えました。本年のアフリカデー・シンポジウムのテーマである、「日・アフリカ間の

インフラ、貿易及び投資の促進のための金融手段」については、我が国は、ＴＩＣＡＤプロセスの三本柱の一つである「経済成長を通じた貧困削減」のための支援の方策として取り組んで参りました。例えば、二〇〇四年十一月に日本政府は、アジア・アフリカ間の貿易・投資の促進を通じたアフリカ開発をテーマとした「ＴＩＣＡＤアジア・アフリカ貿易投資会議」を東京で開催し、ＴＩＣＡＤプロセスを通じたアジア・アフリカ間の官民パートナーシップの強化を提案しました。これを踏まえ、日本貿易保険による対アフリカ貿易・投資に係る保険引受の拡充や、ＪＢＩＣの投資金融制度による日本企業支援等の「金融手段」がとられております。我が国は、アフリカの貿易投資促進のための取組を引き続き積極的に行って参ります。

安倍内閣は、ＴＩＣＡＤプロセスを基軸としつつ、アフリカ重視の姿勢を貫いております。我が国はいよいよ来年、横浜で第四回アフリカ開発会議（ＴＩＣＡＤⅣ）を開催致します。ＴＩＣＡＤⅣは、これまでのＴＩＣＡＤの単なる延長線ではあり得ません。アフリカ諸国のみならず新旧のドナー諸国も交えながら、貧困、感染症、難民といった問題の解決に一層努力すると共に、アフリカで現在見られる高い経済成長、民主化や平和の進展といった明るい方向への肯定的な動きを後押しすべく、「元氣なアフリカ」を目指し、国際社

会全体がアフリカを支援する場としたいと考えています。

昨日、安倍総理は、二〇五〇年までに温暖化ガス排出量を現行水準から半減し、地球温暖化を制御することにより、「美しい星」を目指すとの方針を発表しました。私自身、二〇〇〇年、総理大臣として初めてアフリカを訪問しました。ナイジェリア、ケニア及び南アフリカを訪れ、アフリカの夜空の美しさに感動した記憶があります。まるでダイヤモンドが降ってくるような美しさでしたが、同時に、このような美しい空を世界中が忘れている、いや、知らないのではないか、とも思いました。総理が「美しい国」を創ることを目標に掲げる我が国としては、世界中が、アフリカの美しい空、明るい太陽、そして心の美しいアフリカの人々に接する機会を求め、支援を強化していくよう、取組を推進していきたいと思えます。

来年のT-CAD₂に向け、各国大使閣下の引き続きの御協力をよろしくお願い致したく、アフリカ各国首脳の積極的な参加を期待します。

さらに二〇〇八年は、我が国がG8サミットを開催する年でもあります。私は、二〇〇〇年の九州・沖縄サミット開催に際し、ブラジル・アルジェリア大統領、オバサンジョ・ナイジェリア大統領及びムベキ・南アフリカ大統領を招待し、G8首脳と会談する機会を設けました。これは、G8がアフリカに関与するきっかけにも

なりました。安倍総理も、必ずアフリカの声をG8の同僚たちの間にも反映させるよう努力するでしょう。

私は、アフリカの子供達が、男女の区別なく、学校に通い、教師や医師といった職に就くという夢、ひいては世界から戦争がなくなり、平等な社会になるというアフリカの子供達の夢の実現に向け、自らの政治信念として、アフリカが直面する課題に取り組んでいきます。そのためにも、日本・AU友好議員連盟会長として、今後とも議連メンバーのアフリカ諸国訪問など人的交流を中心に、アフリカ諸国との関係強化に努力していきたいと考えております。議連は、既にアフリカ五三ヶ国のうち四五ヶ国を訪問しています。今後とも積極的に日・アフリカ友好関係の強化に向けた取組を進めていくことをここに誓います。

最後になりましたが、アフリカ連合(AU)の一層の発展とアフリカ諸国の繁栄、そして在京アフリカ外交団各位のご健勝をお祈りいたします。